



合同チーム 13 人で挑んだ全国大会をレポート

大根占池田ソフトボール 全国大会ベスト 16 入り

合同チーム、わずか 13 人で全国切符を手にした大根占池田ソフトボールスポーツ少年団。初めて出場した全国大会でベスト 16 入りを果たし、大きな成長と飛躍を見せた子どもたちが夢舞台で見たものとは。濱田育成会長への取材とともに振り返る。

鹿児島県予選を制して全国への切符を手にした、大根占池田ソフトボールスポーツ少年団が町長を訪問して大会結果を報告した。1 回戦はシード権を得たため、埼玉代表を下し勝ち進んだ福井県代表あそうづファイヤーズと 2 回戦で対戦。2 回裏に四球で出塁した上園を得点圏に置き、7 番上玉利がライト前ヒットで 1 点を先制すると、3 回にも川越、上園、上玉利らのタイムリーでこの回 6 点を奪い引き離す。5

鹿児島県予選を制して全国への切符を手にした、大根占池田ソフトボールスポーツ少年団が町長を訪問して大会結果を報告した。1 回戦はシード権を得たため、埼玉代表を下し勝ち進んだ福井県代表あそうづファイヤーズと 2 回戦で対戦。2 回裏に四球で出塁した上園を得点圏に置き、7 番上玉利がライト前ヒットで 1 点を先制すると、3 回にも川越、上園、上玉利らのタイムリーでこの回 6 点を奪い引き離す。5

回にも川崎起駿、小脇、濱田の連続ヒットで 3 点を追加し勝負を決めた。投げてはエース川崎が 14 奪三振、被安打 1 に抑える好投で 10 対 0 の完封勝利と好発進を見せた。続く 3 回戦は全国常連の強豪チーム、大阪代表の大阪松原と対戦。初回から四球やエラー絡みで 3 点、2 回にも 1 点を失う。3 回に犠牲フライで 1 点、4 回にも 1 点を返すが、この試合わずか 4 安打に抑えられ 7 対 2 で準々決勝進出を逃した。

仲間とさらなる頂を目指す

「制球が安定しなかった。敗因は四球やエラーからの失点。さらに練習を積む」と前を向く川崎投手。小脇賢佑主将は、夏の全国を見据え「4 月から始まる地区予選を確実に勝ち上がる」と力を込めた。「大勢の方に応援してもらい子どもたちも励みになった。これからチームの活躍で恩返しできた」と周囲の支えに感謝を込めた川崎明人監督も夏の大会を見据える。

全国の大舞台を経験した子どもたちは大きく成長して帰ってきた。全国ベスト 16 は大きな自信になったことだろう。6 年生にとっては最後の夏。嬉し



大根占池田ソフトボールスポーツ少年団

5 年生以下の新チームとして大根占ソフト 8 名、池田ソフト 5 名で結成した合同チーム。小脇賢佑主将、濱田虎牙副主将を中心に初の全国大会出場を決めた。エース川崎起駿は 4 年生で九州、5 年生で全国を経験し春季全日本少年男子大会本部からも「全国で上位を狙える投手」と期待される逸材。練習は毎週火土日の週 3 回、町総合運動公園グラウンドで 17 時 30 分から 2 時間。希望者は体験や見学もできる。

錦江町出身

山中琉空選手(育英館中) 中学軟式野球で全国制覇

錦江町出身で育英館中学野球部(日置市)の主将を務める山中琉空選手。全国の強豪相手に勝ち上がり、悲願の日本一を成し遂げた軌跡をたどる。

決勝戦初回は山中選手がレフト前ヒットで出塁。盗塁と相手のエラーで 3 塁へ進塁し、続く 2 番のタイムリーで 1 点を先制。5 回にも山中選手から始まった連続安打で 3 点を追加し優勝を決めた。



小 6 で決めた覚悟と挑戦

3 月 26 日、静岡県で開催された第 13 回全日本少年春季軟式野球大会に、錦江町出身で育英館中学野球部 2 年の、山中琉空選手が出演。悲願の全国制覇を成し遂げ優勝メダルを胸に故郷へ凱旋した。同校野球部の全国出場は春夏通算 8 回、6 回連続となる。山中選手は 1 年から 1 番ショートを担当。2 年からは主将としてチームをまとめる。幼少期から野球が大好きだったと話す山中選手は、小学 3 年から大根占ソフトに所属し練習に明け暮れた。野球で全国を目指したいと大根占小を卒業後は故郷を離れ、日置市の育英館中学で野球に打ち込む覚悟を決めた。食事以外、身の回りのことはすべて自分でこなす。「両親をはじめ、監督や支えてくれる周囲に感謝している」と話す。

春夏連覇とその先の夢へ

山中選手自身は春夏 3 回続けての全国大会出場。今大会は各県代表の 55 チームで日本一を争った。初戦から大阪の強豪、門真ビックドリームスと対戦し 1 対 0 の接戦を制して波に乗ると続く浜松開誠館を破り、姉妹校の宮崎日章学園と対戦。「互いに手の内を知るチームで今大会の正念場だった」と振り返る。初回到 2 点を先制し、6 回にも山中選手のヒットから打線が続き 2 点を追加して準決勝に駒を進めた。迎えた決勝は愛知の名古屋ドジャ―

ス。5 試合中 4 試合を投げ抜いたエース有村が 4 安打無失点に抑える好投に打線も援護。初回と 4 回に着実に得点を重ね、完封勝利。チーム初となる悲願の初優勝をつかみ取った。170センチ、70キログラムと恵まれた体格は、毎食おかわり 3 杯以上とされる食トレの成果。親元を離れ、仲間とともに練習を積む山中選手は心も体も大きく成長している。「夏も制して連覇を狙う。高校では甲子園で日本一」と夢に向かって突き進む。耳に入る後輩の活躍も嬉しいと頬を緩ませる、山中選手のさらなる飛躍に期待したい。

やまなか・るく

錦江町馬場出身。大根占小卒業後は日置市の育英館中学へ進学。野球部に所属し、50m6 秒 2 の俊足で 1 年生から 1 番ショートを担当される。足を絡めた機動力と固い守りが持ち味。部員数は 17 名と少ないが実力のある仲間恵まれていると胸を張る。大根占ソフト時代は投手。親元を離れ寮生活を送る 2007 年生まれの 14 歳。3 月 30 日に町長を訪問し、大会結果を報告した。

